

平成27年度行政事業レビューシート (総務省)

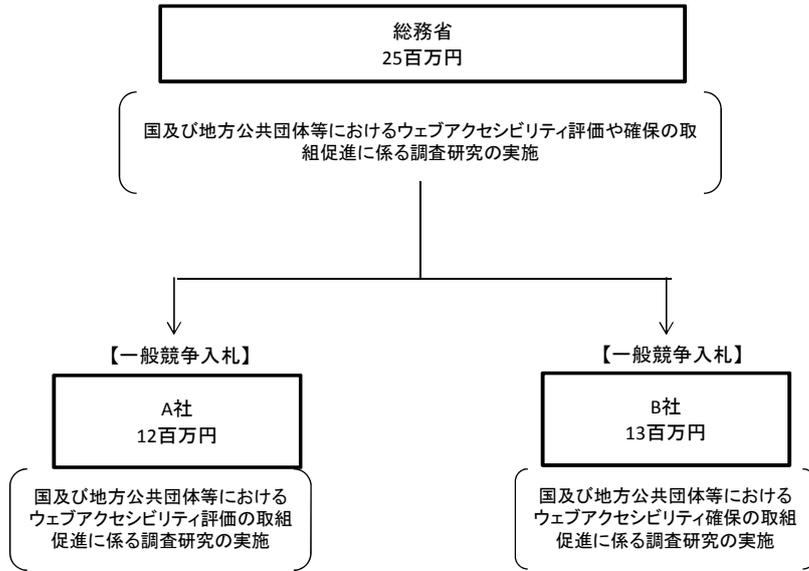
| | | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--------|--|--|--------------|----------|-------------------------------|----------------|
| 事業名 | ウェブアクセシビリティに関する調査研究 | | | 担当部局 | 情報流通行政局 | 作成責任者 | | | |
| 事業開始年度 | 平成27年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成29年度 | 担当課室 | 情報通信利用促進課 | 課長 岸本 哲哉 | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | 政策・施策名 | V-2 情報通信技術高度利活用の推進 | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 総務省設置法第4条第76号 | | | 関係する計画、通知等 | 「障害者基本計画」(平成25年9月閣議決定) 「世界最先端IT国家創造宣言」(平成26年6月閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 高齢社会対策、障害者施策、IT戦略 | | | 主要経費 | その他の事項経費 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 障害者差別解消法の施行や、ウェブアクセシビリティに係る国内規格の改正等を踏まえ、ウェブアクセシビリティ確保を支援する手順書等を改定・拡充することで、高齢者・障害者のバリアフリー化に寄与し、誰もがICTを活用した情報アクセスが可能な社会の実現を目指す。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ウェブアクセシビリティに関する国内規格(JIS X 8341-3)の改定や、ウェブ技術(HTML5)の国際標準化、障害者差別解消法の施行等の動向により、国・地方公共団体等の公的機関におけるウェブアクセシビリティの確保はますます重要性が高まっている。そのため、今回のJIS改正に合わせ、同規格が求める要件を満たすための実施すべき取組項目とその手順を示す「みんなの公共サイト運用モデル」及びアクセシビリティの検証・試験を行うためのチェックツールである「みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker」を改定・公表する。なお、改定にあたっては、本件の主なユーザーである地方自治体のニーズ等を調査し、その結果や有識者の知見を反映することで、より使いやすい手順書等を開発することとする。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度要求 | | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | - | - | - | 25 | 16 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | 0 | 0 | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 25 | 16 | | |
| | | 執行額 | - | - | - | - | | | |
| | 執行率(%) | - | - | - | - | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | | 単位 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 目標最終年度 29年度 |
| | 準拠した自治体等の増加率を10%とする。 | 平成26年度を基準とする、改定版公開翌々年度以降のJISへの準拠数の増加率 | 成果実績 | % | - | - | - | - | |
| | | | 目標値 | % | - | - | - | 10 | |
| | | | 達成度 | % | - | - | - | - | |
| 成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載 | | | | | | | | <input type="checkbox"/> チェック | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度活動見込 | | |
| | 改定版運用モデル一式及び改定版チェックツール一式 | 活動実績 | 式 | - | - | - | | | |
| | | 当初見込み | 式 | - | - | - | 2 | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度見込 | | |
| | 調査研究総費用÷調査研究の成果物(百万円/式) | 単位当たりコスト | 百万円 | - | - | - | 12.5 | | |
| | | 計算式 | 百万円/式 | - | - | - | 25百万円/2式 | | |
| 平成27・28年度予算内訳(単位:百万円) | 費目 | 27年度当初予算 | 28年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 諸謝金 | 0.5 | 0 | 平成27年度は運用モデル及びチェックツールの改定・改修を行ったが、平成28年度はウェブアクセシビリティ確保に向けた普及・啓発を実施することに伴う工数等の減。 | | | | | |
| | 委員等旅費 | 0.3 | 0 | | | | | | |
| | 情報通信技術研究開発調査費 | 24.2 | 16 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 計 | 25 | 16 | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| 項目 | | 評価 | 評価に関する説明 | | | |
|-------------------------|--|--------|---|--------|---|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | ICTの社会基盤としての重要性が高まり、国及び地方公共団体等の公的機関の様々な情報がインターネットで提供される現在、障害者や高齢者を含めたあらゆる人々が、インターネットを介して情報にアクセスできる環境の整備は社会的なニーズがあり、本事業は的確にニーズを反映している。 | | | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 本事業は、平成23年度に総務省が公開した手順書及びチェックツールについて、ウェブアクセシビリティに関する国内規格の改正及びウェブ技術の国際標準化にあわせて、改定・拡充するものであり、また、主な対象が全国の自治体であることから、各自治体が個別にマニュアル等を作成することにはなじまず、国が統一的に作成すべきものである。 | | | |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 障害者基本法において、情報の利用におけるバリアフリー化に関する障害者への配慮義務等が規定され、障害者基本計画においては、情報アクセシビリティの取組促進が挙げられているとともに、世界最先端IT国家創造宣言に本事業が盛り込まれている。よって、国費を投じて国が実施する優先度の高い事業であることに加え、ウェブアクセシビリティに関するノウハウ等の提供は自治体等の持続可能な取組を支援できるもので、有効性の高い適切な事業である。 | | | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | - | | | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 本事業の成果を利用し、国及び地方公共団体等が独自にアクセシビリティ確保の取組を推進することにより、障害者や高齢者を含めたあらゆる人々がインターネットを介して情報にアクセスできることとなることから、最終的な受益者は障害者等である。本件は、自治体に資金を流すものではなく、本件の成果物を使って自治体自らのリソースでウェブアクセシビリティ確保に取り組むものであり、応分の負担を伴うもので、妥当である。 | | | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | | | | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | | | | |
| | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | - | | | | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | | | | |
| | その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか | - | | | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか | - | | | | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 補助金等出支援する方法が考えられるが、このスキームでは自治体等にノウハウ等の蓄積が期待できず、持続可能な取組が困難で有り、効果的とはいえない。 | | | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | - | | | | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | - | | | | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | | | | |
| | 所管府省・部局名 | 事業番号 | 事業名 | | | |
| | | | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | | | | |
| | 改善の方向性 | | | | | |
| 外部有識者の所見 | | | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | | | | |
| 平成22年度 | - | 平成23年度 | - | 平成24年度 | - | |
| 平成25年度 | - | 平成26年度 | 新27-0010 | | | |

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

| A. | | | E. | | |
|----|----|-------------|----|----|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| B. | | | F. | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|---|-----|------|--------------|------|-----|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |

支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載

チェック